

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	小学生を交通事故から守る！黄色の保護帽		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	小学生を守り隊		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択→	アイテムを選択してください。 3	
チームメンバー数(公開)	3人		
代表者(公開)	岸田瑞妃		
メンバー(公開)	名藤居咲衣、平居芽依		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

- 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名（[メンバー一覧ページ](#)を参照）、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
- 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 →

＜チームメンバー名簿：[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、[どのような社会的活動\(サービス\)を行うのかを具体的に示してください。](#)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でワクワクするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

<解決したい課題のポイント>

小学生がより安全に通学できるようにする

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

(参考)よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感(使う人の立場になってみる)が大切です。

<提案するアイデアの内容>

工事現場用のインナーキャップを基にした、新しい通学用の帽子を開発し、普及させるアイデアです。

このアイデアは、小学生の登下校をより安全なものにするために発案されました。

教育委員会や学校関係者、地元の製造業者が主体となり、小学生とその保護者を対象に行います。新学期の開始時や防災訓練のタイミングを活用し、学校現場で試験導入を行います。まず工事現場用のインナーキャップを参考にし、通気性・快適性に優れた黄色い帽子型の安全ヘルメットを地元製造業者と協力して試作します。その後、学校で実際に児童に登下校時の着用を促し、安全授業やワークショップを通じて小学生自身が安全意識を高める機会をつくれます。加えて、小学生、保護者、教員からアンケートや意見を収集し、使いやすさや機能性の改善点を洗い出します。こうした意見を反映しながら製品を改良し、正式に導入・普及を進めます。保護者説明会や学校の広報誌、SNS を活用することで、保護者の理解や協力も得ながら定着を図ります。小学生自身がヘルメットの着用を通じて安全意識を持ち、保護者も製品評価に参加することで、受益者が主体的に関わる仕組みが整い、より安全な登下校の実現につながります。

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由(なぜ)について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

※このアイデアを提案する理由(なぜ)を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

<参考: 以下のように理由を書いていきます>

※根拠: このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け: その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。(定性データを含めて歓迎)

小学生の通学をどうしたらより安全にできるか考えたきっかけは、私たちの暮らしている長浜市で、通学中の小学生の列に車が突っ込む事故が起きたことでした。その事故を知り、「いつ事故が起きるか分からない」「打ちどころが悪ければ命に関わる」という危機感を強く持ちました。そこで、どうすれば小学生の安全を守れるのかを考え、警察署の交通課にインタビューを行いました。

インタビューを通じて分かったのは、事故は突然発生し、運が悪ければ大きな被害につながることで、そして事故を未然に防ぐためには事前の備えが非常に重要だということです。例えば、交通安全教室や高校生のヘルメット着用など、日頃から安全意識を高める取り組みが効果的であることも教えていただきました。また、歩行者向けの保護帽が存在することも知りましたが、現状では一部の小学校で導入されているものの、「蒸れやすい」「快適性に欠ける」などの課題があることも分かりました。

これらの調査を踏まえて、私たちは「工事現場用のインナーキャップ」を基に通学用ヘルメットを改良し、機能性と快適性を両立させた新しい安全帽子を開発することを考えました。黄色い帽子のようにすべての小学生が自然と被るものにすることで、登下校時に万が一事故が起きた際の被害を軽減し、より安全な通学時間を実現できると結論づけました。

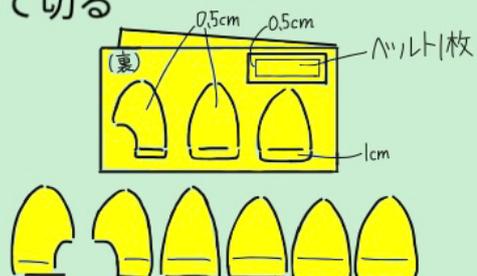
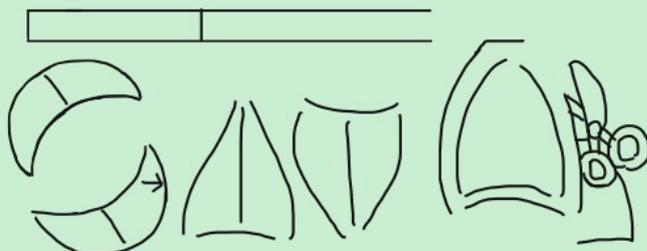
これから私たちは、改良案の作成と試験導入、そして学校や保護者への普及活動を提案し、すべての小学生が安全に登下校できる環境づくりを目指します。

ヘルメット帽の作り方

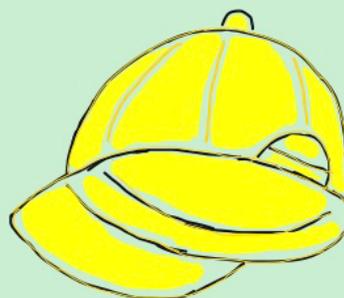
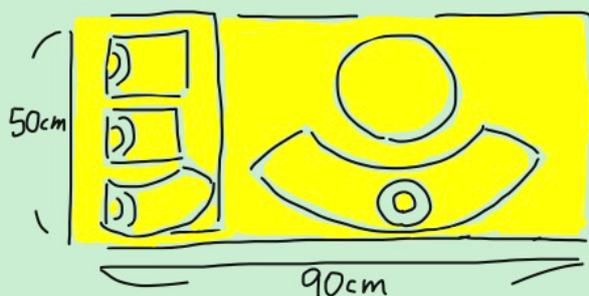
1、帽子を作る



- ① 帽子の型紙を作る ② 布を型紙に沿って切る



- ③ 切った布をミシンで縫い合わせる



- ④ インナーキャップを帽子に取り付ける



<https://clover.co.jp/boushi/cap.html>

<https://kagakumag.com/houseware/?id=9815>

<https://www.tullysuzuki.com/entry/helmet>

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

このアイデアの実現主体は教育委員会と警察署の交通課です。実現に必要な資源としては、市との協力によって税金を活用し、初期の開発費や普及活動を賄います。最終的に商品として普及した後は、保護者からの費用負担によって継続的な運用を行います。プロセスとして、1月に試作品を完成させ、2月から普及活動を開始します。具体的には、虎姫高校の学問祭にてポスター発表などを行い宣伝を進め、さらに教育委員会や地元メディアと協力して広報活動を展開します。また、警察署の交通課とも連携し、小学校でヘルメットの重要性を伝える説明会を実施し、保護者や学校関係者の協力を得ます。その後、小学生に実際にヘルメットを着用してもらう試運転期間を設け、フィードバックを収集して最終的なモデルを完成させ、最終的には学校へ導入してもらいます。